

# 昭和三十一年度現地調査要告

三三・一一・一〇 斎藤彦松 記

以下は二人以上にて行つたところの現地調査の要点記録である。

一、四月十日 四回生斎藤、二回生戸田

・岐阜県不破郡赤坂町金生山宇虚空蔵 明星輪寺（

Myo iyo rin ji）真言宗智山派

／ 聖観音坐像線刻磨崖仏（大正三年頃）

2 不動坐像線刻磨崖仏（同右）

3 磨崖白書「曇鸞」（近年）

4 大理石如法経碑 （藤原期A.D.1148）

「如法経 久安二二年」

5 明星輪寺梵鐘 （吉野期A.D.1392）

「明徳二癸酉年三月十二日

勸進聖江州犬上西郡千手院住慶淳

沙彌淨性

大工藤原為繼」

・岐阜県安八郡神戸町下官宇大官 勸学院密蔵寺（  
Mitsu gon ji）天台宗

／ 九重版木 十八枚（両面彫刻）

版木を容れた木箱の蓋内部に次の墨書銘あり。

寛文十二壬子六月如誓日

濃州平野安八郡下官勸学院九重守箱

啓海法印時代金蓮寺也

2 漆塗経箱 一（室町期A.D.1538）

鳳凰、五三桐等の模様入り。外底部に朱漆にて次の銘あり。

「経箱勸学院常住天文七稔九月十七日」蓋内部に同朱漆文字にて

「経箱 勸学院常住」とある。

右の他に次の品を蔵する由なるも未見。

法華經（弘仁八年伝教大師 嚴寺留錫中書写と伝

ふ。七卷）

黄金説相箱（右の折り御所持の品）

黄金六器上下十二個。黄金香炉一個。黄金飯食器

二個。黄金鈴虫振鈴一個。黄金五鈷一個。黄金柄

香炉一個。（以上六品伝教大師御将来品）

二、五月十三日 教授伊藤真徹四回生齋藤、同松本

同村島、同萩原、同町口、同高橋

。京都市伏見区醍醐 醍醐寺宝篋館（真言宗醍醐派

本山）

／ 白銅卒都婆鈴 宝物第一〇号（推定唐時代）

2 彌陀五仏画像（紅玻璃色彌陀坐像）（推定鎌

倉期）

裏面に次の墨書あり

「阿彌陀三尊古画一張想是延天間之物乎装具

上小字亦非百季以降之墨矣不科得之經庫敗壞

已太甚故新加補葺開眼供養為長日瑜伽之本尊

寛政 戊午十二月二十一日醍醐寺座主高演」

三、六月二日 教授伊藤真徹、同成田、助手成田（後）

専内田、四、齋藤、四、村島 四、萩原 四、町口

四、小幡

。京都府相楽郡加茂町瓶原 恭仁京趾

／ 太極殿趾在 水鉢様石造品

側面に左記の刻銘在り（拓本研究室）

「乙丑四月八日」

。同町例弊 海住山寺（真言宗智山派）

／ 本坊廊下銅鐘（鎌倉期 A.D.1297）

「修禪院別院

無量寿院鐘

正嘉元年十月九日

院主印玄 鑄物師丹治国忠」

2 本堂前水船石（鎌倉期 A.D.1258）

「正嘉二年 戊午十二月日」

3 本堂内補陀落山板壁画 二面（室町期 A.D.

1473）

一面の裏面に次の墨書ありたる由「考古学雑誌」

三ノ六岩井氏報文に見える。

「奉図絵補陀落山

干時文明五年 癸巳六月下旬

和尚慶繼開眼供養導師

奉行衆良慶 重繼 成繼 宗英 慶俊

繪師加賀守

任阿彌妙忻信覺妙覺理法界塗施主津越連任」

4 山内五大院磨崖不動立像（推定室町期）

5 海住山寺起請五箇条 一卷

（解脫上人筆写 建歷三年A.D.1213）

6 覺真定狀 一卷（鎌倉期A.D.1232）

「貞永元年五月 日 海住山寺住僧覺真狀」

7 舍利文書別記 一紙（鎌倉期A.D.1208）

「 納水精塔

仏舍利 二粒

一粒 東 寺

一粒 招提寺

件舍利者承元二年戊戌九月

七日於河内国交野新御堂

從 院所奉請也御使長房

郷云其色渴者東寺也其色

澄者招提也云 今有愚願

奉安置山城国海住山了

8 承元貳年九月九日沙門花押（定慶）」  
舍利文書 一紙（鎌倉期A.D.1214）

「海住山寺

五重宝塔安置仏舍利七粒建保

二年二月三日当先師登壇周忌修

供養之七粒内二粒先師御相伝

也其子細在別記五粒今奉加之

七粒安置有所表永莫他散

沙門覺真」

9 慈心塔（特殊五輪石塔）（推定鎌倉期）

水輪部四面に梵文「仏頂尊勝陀羅尼」を刻す

四、六月十六日 四、斎藤 同村島 同垂水 同小

幡

・大津市坂本々町 盛安寺（天台真盛宗）

/ 伝崇福寺十一面觀音立像（木造）

像高五尺九寸五分（推定平安初期）

2 永祿二年彌陀名号碑（石）室町期A.D.1559

「 法界衆生道円

南無阿彌陀仏

永祿二四月十五日」

3 天文廿一年彌陀名号碑（石）室町期A.D.1552

南無阿彌陀仏

天文廿一年九月二日

五、六月二十五日 四、斎藤 同村島

。京都市東大路今出川 百万遍智恩寺（浄土宗）

/ 写經一卷「金紙金泥阿彌陀經、阿彌陀大咒（梵）

同小咒（梵）。光明真言（梵）」

卷末に次の銘文あり。

「抑此經者每字致三称三礼并

香萃燈明飲食之四事供養如

法奉書写畢前加行七十日之

間昼夜不断行道念仏是則

始自結縁衆至干十方界同

生極楽国興証無上道矣

尼蓮阿

銘の他は経題に至る迄一塔一字式なり。塔形は

五輪塔で経文字は其の水輪中に一字宛配す。下

記に例示する。



六、七月十四日 四、斎藤 同小幡

。京都府綴喜郡普賢村字天王 朱智神社

/ 牛頭天王木像（総高二尺六寸）

。同天王惣墓内

/ 十六仏板石（桃山期A.D.1590）

妙祐 妙泉 妙慶 妙泉

妙慶 妙福 見宗 妙善

妙心 妙金 妙西

妙円 妙円 見心 妙円

天正十八年六月三日

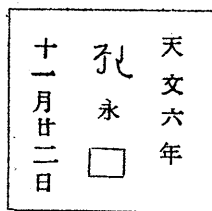
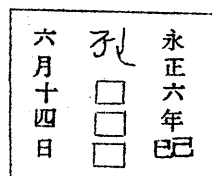
2 十六仏板碑（推定室町期）

3 五輪石塔（総高五尺一寸）（推定鎌倉期）

・同郡田辺町字多多羅 極楽寺（浄土宗）

/ 五輪石塔（総高四尺六寸）（推定鎌倉期）

2 五輪石塔残欠（地輪石） 二（室町期）

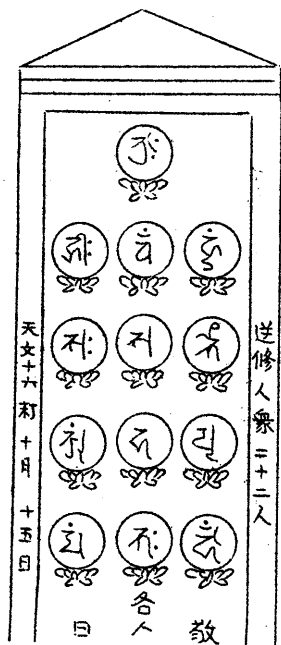


七、八月二十日 四、斎藤 同小幡

・奈良県生駒郡生駒町字有里 奥山往生院

/ 十三仏梵字板碑（室町期 A.D.1547）

送修人数 三十二人



・同町字大門通称大黒

/ 磨崖十三仏（桃山期 A.D.1583）



・同町字西畑

/ 暗峠磨崖彌陀三尊（推定室町期）

中尊彌陀立像、向つて右「」・左「」

2 暗峠彌陀名号碑（推定室町期）（斎藤彦松卒論参照）

参照）

・同町有里三〇番地 興融寺（融通念仏宗）

/ 五輪石塔（火輪上露盤）鎌倉期 A.D.1273

昭和十八年黒田昇義氏の拓本調査に拠ると地輪

の銘文を次の如く見て居られるが現在では破損して

読み難くなつてゐる。

「文永十年  
酉

「三月廿六日」

2 彌陀名号板碑（室町期 A.D. 1561）

「有里夜念仏」

南無阿彌陀仏

永禄十八年三月五日

3 十三仏板碑（室町期 A.D. 1549）

「石志者為法花千部供養祐養妙久修七世四息

道徳

妙往

妙祐

秀円

円秀

法界平等利益天文十八年四月十五日忌為施

主敬白」

八、八月二十七日 四、斎藤 同村島

。福岡県田川郡香春町五六番地 賀春山神官院護摩石

寺（天台宗）

／ 磨崖一字金輪種子（石灰岩）

hruin （斎藤彦松卒論参照）

2 鉄造誕生仏（高一尺五寸）（推定鎌倉期）

九、八月二十八日

。福岡県宗像郡宗像町同前 宗像神社

／ 阿彌陀經仏石（村島邦俊卒論参照）

2 石造狛犬一對（鎌倉期 A.D. 1201）

「奉施入宗像官第 「造像銘記」考古学会

三御前宝前建仁 （大正十五年）P. 119

元年 辛酉 藤原支房」に友房とあるのは間違）

3 木造特殊狛犬 一對（推定平安期）

4 キリク字兜（「」字を頂てゐる）

。同郡玄海町宇吉田 鎮国寺（真言宗御室派）

／ 五輪石塔（推定鎌倉期）

2 元永二年碑石（藤原期 A.D. 1119）

「願主沙彌妙法記 （研究室の拓本参照

奉造立十二万本率都婆 照のこと）

金銅阿彌陀像数体仏菩薩像等  
奉写蓋幡花「罽」宝樹六鳥栴

妓極楽郷池中彌勒仏頭十三事

十四□勒元永二年十一月七日建立了」

3 磨崖五仏種子及護摩炉（斎藤卒論参照）

4 磨崖靈鷲山窟胎藏法種子曼荼羅（同右）

5 靈鷲山窟内請雨經線刻曼荼羅石（鎌倉期A.D.

1923）

「 勸進比丘西蓮

釈迦如来演説請雨經八大龍王聞法所化像

第二宮本地（八大龍王中四龍王像）

（釈迦坐像）

鎮国寺石堀（八大龍王中四龍王像）

弘長三年癸六月十二日発願同十四日降雨

転経沙門皇婆 願主沙彌淨心

徒衆智賢 絵師僧 禅澄 「

（研究室に拓本あり参照）

6 鷲山堀銘仏像石（推定鎌倉期）

「鷲山堀」上部欠損

7 靈鷲山窟内中尊不動銅像（江戸期A.D.1670）

炎光背裏面に刻銘あり

「 寛文十辛 亥年三月吉日

奉造立不動之人煙願主

屏風山鎮国寺中興開山昌伝敬白

昌伝阿闍梨」

十、八月二十九日 前に同じ

・佐賀県東松浦郡入野村字葛津小字岩屋 真言宗鶴松

山法海寺

／石窟 三（推定江戸期）（斎藤卒論参照）

東窟磨崖 仏五、中央窟なし、西窟仏像其他

計一四八像の窟内壁磨崖仏あり

十一、八月三十日 同前

・佐賀県武雄市御船山附近

／南麓磨崖大不動三尊像（推定室町期）

2 枯木塔磨崖彌陀六地藏像（推定室町期）

3 枯木塔磨崖不動三尊蔵（同右）

4 萩野尾磨崖彌陀三尊石窟仏

以上四項は斎藤卒論参照

5 萩野尾石窟中五百羅漢石像群（推定江戸期）

・福岡県三潯郡大川町酒見 風浪神社

／ 正平五重石層塔 (吉野期 A.D. 1355)

基礎石四面に刻銘あり

(南面)

一 基 石 志 趣	五 重 石 塔	御 宝 前	大 權 現 之	所 九 十 九 所	酒 見 村 当	筑 後 州	奉 造 立
-----------------------	------------------	-------------	------------------	-----------------------	------------------	-------------	-------------

(北面)

十 月 日	十 年 未	峯 正 平	如 件 平	奉 造 立	之 爲 也 仍 所
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-----------------------

(西面)

平 等 利 益	乃 至 法 界	民 快 樂	村 安 穩 万	豐 饒 殊 当	円 満 国 土	地 久 御 願	者 爲 天 長
------------------	------------------	-------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

(東面)

敬 白	介 嗣	藤 原	大 工	沙 彌 道 一	道 主 沙 彌 慧	願 主 沙 彌
--------	--------	--------	--------	------------------	-----------------------	------------------

2. 石人・石楯各一 (古墳時代)

十二、八月三十一日 同前

・福岡県三井郡善導寺町 善導寺 (浄土宗)

／ 推定石宝塔残欠一、 (鎌倉期 A.D. 1267)

2. 推定石宝塔残欠一、 (鎌倉期 A.D. 1277)

3. 推定石宝塔残欠一、 (鎌倉期 A.D. 1301)

1. (文永4年) 慈阿彌陀仏  
□ □ 二二年 則 三月十八  
□ 封 往生極樂

2 (建治3年)

二 日 未 時	二 月 二 十	建 治 三 季 丑	聖 靈 往 生	□ 阿 彌 陀 仏
------------------	------------------	-----------------------	------------------	-----------------------

3. (正安3年)

年 三 十 八	四 月 九 日	正 安 三 年	往 生 極 樂	滅 罪 生 善	妙 光 聖 靈
------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------



4 血書写経「阿彌陀經」一卷（推定鎌倉期）

卷末奥書次の如し

「弁阿大和尚

如法經加行衆

一和尚 湛恵大徳

二和尚 良秀大徳 三和尚明若大徳

四和尚 幸 玠大徳 五和尚良遍大徳

六和尚 明賀大徳 七和尚二□□

願以此結縁書写之功一仏浄土之

来縁而云

・熊本県八代市植柳町 米知徳氏浄心園

/ 旧城泉寺十三石層塔 1基（鎌倉期 A.D.1230）

「奉造立十三重石塔

右為滅罪生善乃至法界

平等利益造立如件

寛喜二年 庚十一月 日

大檀那沙彌 浄心

并 藤原氏

（阿彌陀仏坐像）

大工兼仏師 幸西

小工 栄幸


行事 藤原頼忠

源 光吉

鍛冶 末正

院主金剛仏子念西」

2 石宝塔残欠（推定鎌倉期）

塔身四周に「」字の薬研彫あり

十三、九月一日 同前

・大分県西国東郡真玉町黒土小字下黒土四王六所権現

（推定鎌倉期）

/ 種子法華曼荼羅（磨崖）

2 金界五仏、六観音、六地藏、不動多聞磨崖仏像

（/2共斎藤卒論参照）

十四、九月十三日 四、斎藤 同村島 同松本

・京都市右京区嵯峨中院町 二尊院（天台宗）

/ 湛空上人行業碑（宋形式石碑）（推定鎌倉期）

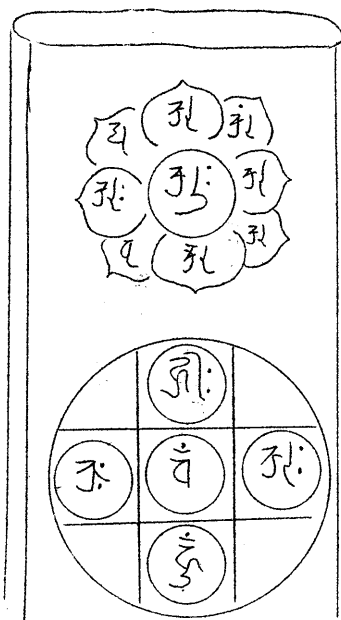
2 絵塔婆 数十枚（推定桃山期）

十五、九月二十二日 四、斎藤 同松本 同村島

・京都府乙訓郡向日町物集女 来迎寺（浄土宗西山光明

寺派）

/ 両界種子曼荼羅石 (推定鎌倉期)



十六、十月十一日 四、齊藤 同松本

・兵庫県尼ヶ崎市開明寺 本興寺(法華宗)

/ 一石五輪塔 (桃山期 A.D.1595)

「 文祿四年

南無妙法蓮華經日教大徳

四月六日 」

2 双連板碑 (桃山期 A.D.1574)

「 天正二年

南無妙法蓮華經妙隆

十月十七

南無妙法蓮華經宗隆 逆修」

十七、十月十三日 四、齊藤 同松本 同村島

同小幡

・奈良県高市郡高取町壺坂 南法華寺(真言宗豊山派)

/ 磨崖五百羅漢群像 (推定桃山期 齊藤卒論参

照)

2 磨崖金胎両界種子曼荼羅 (同右)

3 磨崖釈迦坐像 (同右)

4 磨崖二十五菩薩提来迎群像 (同右)

十八、十月二十一日 四、齊藤 同村島

・滋賀県大津市藤尾観 音堂

/ 磨崖仏 群(中尊彌陀の他十二仏)鎌倉期 A.D.






.1240






「延応貳年 子 二月廿三日供養」

・同市大石富川町

/ 富川磨崖彌陀三尊 (推定鎌倉期)

2 磨崖五輪塔婆二基

イ「 〇七日」

ロ「 〇 五七日

〇〇〇王」

3 宝篋印石塔(特殊四方仏種子)(推定鎌倉)

十九、十月二十五日 四、小幡、同村島、同松本

・奈良市法蓮町 不退寺（真言律宗）

/ 種子十三仏石（小幡卒論参照）

2 五輪石塔（伝阿保親王墓）推定鎌倉期

二十、十月二十六日 教授伊藤真徹 四、齊藤 同

松本 同小幡 同村島 同小林 同無量 三、

小松

・奈良県生駒郡生駒町字有里 興山往生院

/ 本堂北傍宝篋印石塔（江戸期 A.D.1758）

現北面（以下基礎四面）

「経曰若有有情能

於此塔一香一華

礼拝供養八十億

劫生充重罪一時」

現東面

「消滅生免災殃死

生仏家若有応墮

阿鼻地獄若於此

塔或一礼拝或一」

現南面

「右達塞地獄開

菩提路塔及形像

所在之処一切如

来神力所護矣」

現西面

「当山行基菩薩納骨靈場也

老有故当如隱身今建此塔

回向先亡後滅諸靈魂自他

同共往生極樂見仏聞法悟

無生忍乃至法界平等利益

維持宝曆第八歲次戊寅卯月上旬

山崎□安康寺伝燈第□十世

勅賜香衣池門端龍旭巖

廟上建立」

基礎石の下の石の西面

「細工人

□□日根郡

小川氏好兵衛」

2 伝行基菩薩五輪石墓塔（推定鎌倉期）

3 石五輪塔周壁に張り廻らせる繪塔婆 十六枚

(江戸期)

第三号阿闍如来立像下部墨書銘

「大通智勝仏為第一第十東方成正覺……

右意趣者相迎沒故道休禪定門第七……

奉誦誦大乘妙典同音 也然者則阿……

此法眼照衆生無明之暗外以自利々他……

三千界依止功德出直火境往生……

乃至法界平等利益而 已 寛文八年十月二……

第四号釈迦如来立像下部墨書銘

「寔以相当月秋涼 第二

七日忌奉書写支提也 然者則

釈迦如来者一切衆生慈父拔寂

有情之能化也開八万法藏為引

接尊師化現仍乃至法界衆

生者緣無平等利益而已

千時寛文八年八月第十一 日裏 施主市 敬

第五号彌陀立像下部墨書銘

「相 忌

造 法余 祈三

身万徳之妙果 伏願 三 明

高晴五趣迷水影遍彼御菩提

祈者也乃至 頂 間普利一切 亥 敬

正保四季二月二十五日施主彌右衛門

第六号大日立像下部墨書銘

「夫法華者逆即是順之妙肯

邪正一如之経王也爰相擬道清

実相力用祈

出離得脱奉誦誦大乘妙

同音 也 弘迷雲詠覚

乃至法界普利正保四年十八日

第七号勢至菩薩立像下部墨書銘

「帰命日天子本地大勢至為度衆生故普昭

天下夫以相当物故道休禪定門小祥之

奉書写持南也伏乞智力偏振動魔宮缺

偏建立法幢早得智增長速能超越三界

勤修三蜜之秘法成等普利 而已

寛文三年十月二日護持施主孝子敬白

第八号金色如来立像下部墨書銘

「相当祐念禪定門二七日

修此惠業愛也則

此支提彌寶仏

至法界有情□

者也

寛文十八年五月十．．．

第九号定印菩薩立像下部墨書銘

「夫卒都婆者曼相

三昧耶形像也變以請誦經典致仏供施増之□

祈淨慶禪定門十七廻忌菩提者也全依此作善□

離苦得樂昇位而已乃至法界平等利益施主．

相迎為妙慶禪定尼十七廻忌菩提依之施主刻

五輪之妙相修此法会經白水仏無□無滅三諦同性十

世無量三廻世間皆是仏□□□□□□□是仏

依此 功德至妙□□□乃至平等□□□□□已三月七日」

第十号菩薩（持柄香炉）立像下部墨書銘

「相擬道禪定門第五十廻之□文以釈尊□金

棺示□其息寧永壳一身奉養御供

情以一念之妄風□波□心経五大之会縁化

生死迷夢無明之羅刹斫亀□為之命

異滅施陀斂蟬□鉢爰遮那悲愍世持施□

迷明王智切煩惑覺園無夢席悟慕無

□□乃至法界平等利益而明曆二年八月五日敬白」

第十一号虚空像菩薩立像下部墨書銘

「三十三 元和五稔白敬

奉当相祐秀大德

年忌八月七日勝右衛門」

第十二号菩薩形（持宝珠）立像下部墨書銘

「五大種字本地法身瓊畜人天皆是大日

実以代以夫卒都婆事大日如来之三摩耶形像

衆以成仏之真跡也仍相当没故宗盛禪定門

十七年忌之辰奉造立塔婆也依此功德出

生死頓証菩提祈者也仍至法界平等利益而

寛文拾二季七月八日心信施主教子啓

第十三号不動立像下部墨書銘

「相当良安信士初七日追

善刻彫一基孳析仏

果菩提者也迺至法果

平等普利而 已

郡山マハタヤ敬白

寛文八年八月四日 二郎兵衛」  
第十四号彌陀立像下部墨書銘

「竊以相当没故西月道休禪定門大祥忌之辰奉

造立供養身常主之妙導也御願者贊五劫思惟之

貞慈蒙十劫正覺之教化淨□□種之願海□八十一

品之感應乃至法界三有六趣拔苦與樂平等利益也故

寛文四年十月二日護持法主覺順房鈔白

第十五号地藏立像下部墨書銘

「相当月秋涼庵信士第五七日之刻

奉追善之支提也御願者る日晨

朝願力广大也入諸地獄慈悲提

深也值遇六道能化之導廢晝万

劫流転之苦乃至法界平等普利而已

干時寛文八曆九月第三天御欠天戸

第十六号下部的腰板に流用せるもの

「光明遍照十方世界 報恩

列高願者為行基大菩薩千五十遠忌

念仏衆生撰取不捨 謝徳」

4 方伏板 一枚

「 勸進

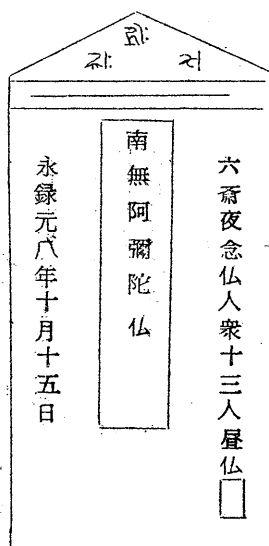
往生所 西急

勤息 』

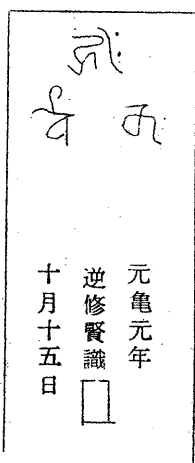
5 足長五輪石塔（推定鎌倉期）

・同町字藤尾 石仏寺（融通念仏宗）

／ 彌陀名号板碑（室町期 A.D.1558）



2 元龜元年碑（室町期 A.D.1570）



・同町有里 文殊山竹林寺（律宗）

／ 伝忍性塔（特殊形石塔）推定鎌倉期

2 伝良遍塔（五輪石塔） 同右

3 伝頼朝塔(五輪石塔残欠) 推定鎌倉期

4 寂滅上人塔(同右) 同右

5 伝円性上人塔(五輪塔火、風、空輪と宝篋印塔基礎石) 推定鎌倉期

二十一、十一月二十三、四日 四、齊藤 同松本 同村

島

・兵庫県美方郡温泉町字湯一七四番地 天龍山正福寺

(天台宗)

/ 経瓦破片 一(松本正之卒論参照)

・同県城崎郡日高町赤崎 日前山進美寺(天台宗)

Nichi zen zan Shin me ji

/ 石龍磨産仏(推定室町齊藤卒論参照)

2 進美寺文書

1 建久八年「供養塔敬白文」A.D.1197)

「鎌倉殿八万四千基御塔内源親長奉仰勸進五百基但馬

国分三百基於御祈禱所進美寺開眼供養 但六十三基

者当寺住僧等造 立目錄者国中大名等所造

右宝塔勸進造立塔意趣者 去保元元年鳥羽一院早隠耶

山之雲 当帝新院目諍一夫已来、源氏平氏乱頻蜂起

王法仏法俱不静 就中前太政大臣入道静海忽誇朝恩、

廻趙高之計恣傾王法繼守屋の跡 類滅仏法 所謂聖武

天皇之御願□□□□盧舍那仏灰燼 後白河院之玉牀幽

閉之間 九重之歎七道之愁 何事過之哉 爰我君前右

大將源朝臣代天討王敵通神伏逆臣早弘一夫之陣雲速静

四海之逆浪都鄙貴賤 無不開歡喜咲但行追罰加刑書間

天亡之輩数千万矣 被軋平家趣北陵輩命消露命於篠原

之草下 被語逆臣渡南海族者 失淳生於八島之浪上

如比類遺恨於生前之衢 含悲於冥途之旅歟 須混勝利

於怨親頒拔濟於平等焉 伝聞 以怨報怨者後世々無斷

以德報怨者転怨爲親 因茲尋阿育之旧跡 造立八万四

千立宝塔 仰豐財藪之利益 書写宝篋印陀羅尼 即於

諸国靈驗之地 敬遂供養演說之誠方今隋高祖唐太宗設

齋延訪率亡 上宮太子朱雀天皇敕守屋導將門 在今訪

古 世異趣同者歟 抑進美寺者 行基菩薩之建立 □

觀世音之靈地擬一念之輩 無不満足求願 宝篋印繼

云 若人於高山之上至心誦呪 眼根所及 一切生類悉

以利益云々

照当寺為鉢 高山時南 大悲之慈雲之聳 深谷北

弘誓之願力 尤深 御塔供養之庭 感応道交之歟也

況又去文治元年被賣八島之逆從時 依小野時広之奉行

轉讀一万巻觀音經祈請折伏 授受方便 自同二年正月十八日長日始三十三卷之御讀經 鎮奉祈我君御万歳祈請年旧雲驗日新 喜哉 住僧 等今幸列御塔供養之人数 重助成君之大願 以比良縁之功 預來世之化仰願 本尊界会觀音薩埵早令円滿施主殿下之求願 伏乞 五輪宝塔宝篋神呪 救討罰之亡率道法界之群類 敬白

建久八年丁巳十月四日午時

勸進奉行司 源親長 敬白

口 建長三年幕府下知狀 (A.D. 1251)

「但馬國進美寺衆徒等申於当寺領田畑等不可致押領狼籍由事石寺者如古大將家御時建久五年五月十五日御下文者為關東御祈禱所 國中在庁大名等不可致押領狼籍処守護並地頭御家人等致違乱煩云云然則守先例可令停止彼輩等押領狼籍者依鎌倉殿仰下知如件

建長三年九月十八日 相模守平朝臣判

陸奥守平朝臣判

ハ 正応三年政頼文書 (A.D. 1290)

「但馬國御祈禱所寺社事別当供僧並神主不修破壞不勤行仏神事由事 去四月廿八日關東御教書如此 早任被

下之旨且加修治且丹誠可被進巻數候恐々謹言

正応三年六月廿五日

左衛門尉政頼判

進美寺院主別当供僧等御中

ニ 文永五年大介藤原朝臣文書 (A.D. 1268)

「可早任先例停止郡司妨根本中堂末寺進美寺領岩出野燈油島至内河成之事

右得彼 寺解称 往古之燈油島也 称有河成郡司成妨之条甚無其謂 早申請座王宮令旨 早停止郡司妨且可備將來之龜鏡云々 者早且任令旨且依先例可停止郡司妨之狀所宜如件 国宜承知勿違失以宜

文永五年六月十九日 大介藤原朝臣

ホ 文永五年法印公証文書 (A.D. 1268)

但馬國進美寺住僧訴申為西具郡司一庁官致濫妨往古燈油島岩出野可成之由事 寺解披露之処任先例停止彼押領 永可為寺領之由被召遣庁宜候以此旨 可有御下知寺僧等候哉之由座主宮御氣色所候也執達如件

文永五六月廿一日 法印公証

謹上

安居院法印御房



文永五年公禪文書 (A.D. 1268)

「追申

此令旨等不慮不日被成進候其後不得便宜候之間違

速又脚力を不被上候条火急之儀候歟

当寺領岩出野河成島一庁官妨事 座主宮令旨並国宜被

下遣之候 此上者定止押妨候歟恐々謹言

文永五

六月廿六日

公禪

進美寺年行事阿闍梨御房

ト 文永七年按察使文書 (A.D. 1270)

「但馬国蓮台寺吉祥寺並石和田保等任本領主兩度寄進  
狀為進美寺領 止国衛妨 可被門跡相者院宣如此仍執

違如件

文永七年二月廿一日

按察使判奉

安居院法印御房

チ 建治三年大宰權帥文書 (A.D. 1277)

「但馬国蓮台寺 吉祥寺石和田保等且依相承之道理

且任文永之院宣 限永代止国衛之妨 可被相伝領掌

之旨 院宣如此仍執違如件

建治三年六月廿二日

大宰權帥判奉

中納言律師御房

リ 弘安七年左弁官下文書 (A.D. 1866)

「左弁官下

応且依度々嚴密 聖断且任代々座主避文永停止国衛

並權門違乱当寺別当当国蓮台寺 吉祥寺

右和田保等事

右澤權大僧都靈勝去五月日奏狀併謹檢案内当寺者行基

菩薩之草創聖觀世音之蓮宮也 勤修顯密不退之惠業奉

祈国家静謐之御願 匪啻為國中無雙之靈場殆可謂山陰

第一之名区 其旨顯于仁平之庁裁被載建保之綸旨 望

請天恩早任断以下可止国衛權門等違乱之旨被下官符

者彌刷遮那止觀之行業祈就日望雲之聖運者權大納言源

朝臣雅房宣 奉勅依請者宜承知依宜行之

弘安九年七月十六日

大史小槻宿彌判

中弁藤原朝臣

又 曆応二年守護代文書 (A.D. 1380)

「進美寺迫衆等申 領所事 為兵科科长定宛行之上者

京都御計之間 更不可有相違者也 今度抽軍忠者

可申宛恩賞之由 可令下知之狀如件

曆応二年三月十八日

御判

守護代

ル 推定南北朝左衛門尉文書

「領書事御教書如此 早任被仰下之旨可被抽軍忠之状  
如件

三月十八日

左衛門尉（花押）

阿曾沼孫四郎殿

3 銅製鰐口（観音堂前）（室町期 A.D.1392）

「明德三年壬申六月十九日願主当山住侶幸円」

4 山門墓股内彫刻梵字（江戸期寛延四年 A.D.17

51）

KS hām 不動種子

sa 観音種子 南北両面に在り

vai 毘沙門種子

5 石壇残欠（幢身六地藏部）推定室町期

。同町浅倉

/ 元磨崖彌陀名号（江戸期 A.D.1619）

「 維時

南無阿彌陀仏

元和五年

己七月 日

2 地藏厚肉坐像（江戸期推定／に同じ）

右／2 共県道拡張の爲め磨崖より割取つたもので名  
号は七個以上の石片になつてゐる。何れも齊藤彦松

卒論参照

。同町禰布堂 観音堂

/ 薬師如来坐像（木彫）（推定藤原期）

二十二、十二月一日 四、齊藤 同小幡 同村島

。奈良県生駒郡生駒町大字谷田小字石神

/ 天文十九年種子十三仏光背碑（室町期 A.D.15

50）

2 永祿十年種子十三仏光背碑（同 A.D.1567）

以上二点小幡卒論及研究室拓本参照

3 五輪塔浮彫板石 二基（鎌倉期）

「敬白

（A.D.1268）

文永五年 戊辰 四月

（二基共研究室に拓本あ

り、参照されし）

4 彌陀名号板碑（推定室町期）

・同町山崎安養寺（融通念仏宗）

／ 地藏立板碑像（室町期 A.D.1559）

「為堯識逆修也」

「永祿二<sub>己未</sub>月廿四日」

・同町山崎 惣墓

／ 天文十六年種子十三仏板碑（室町期 A.D.1547）

小幡秀昭卒論及研究室拓本参照

2 永祿九年彌陀名号板碑（室町期 A.D.1566）

3 文祿二年彌陀名号板碑（桃山期 A.D.1593）

「文祿<sub>□□</sub>年十一月廿八日<sub>□□</sub>道西道<sub>□□</sub>」

以上三点研究室に拓本あり参照）

二十三、十二月十四日 四、齊藤 同小幡

・京都市鞍馬口通寺町東入 上善寺（浄土宗）

／ 十三仏石（推定江戸期）

小幡卒論参照

二十四、昭和三十三年二月九日 四、齊藤 同村島

同近藤

奉供養逆修時濟百万遍

賢海 実秀

西阿彌新十良  
西明<sub>□</sub>八郎次郎  
道仙

南無阿彌陀仏



永祿九年 丙  
源十郎 刀 十月十五日

道心 源十郎

御父祖妙祐  
与次郎<sub>□□□□</sub>

禎二良郎 与三良郎 源三郎 太良五郎 賢庄<sub>□□</sub> 妙音 妙性 妙善 妙海 阿福 德松 女松

係次良郎 左衛門四郎 与四五郎 新四郎 甚次郎 姫千代 妙姫 小才女 小千代 藤夜女 松又女

・京都市右京区梅ヶ畑奥殿町 為因寺（浄土宗）

／ 阿難塔（宝篋印石塔）（鎌倉期 A.D. 1265）

「阿難塔」 （塔身正面）

「文永二年丑」

八月八日建立」（塔身背面）

（研究室に拓本あり参照）

2 五輪石塔（推定鎌倉期）

・同高雄町 神護寺（真言宗）

／ 文覚上人五輪石塔（推定鎌倉初期）

2 性仁親王五輪石塔（鎌倉期）

3 石造露盤 （鎌倉期）

4 下乗石 （鎌倉期 A.D. 1299）

・同梅尾町 高山寺（真言宗）

／ 仏足石 （推定江戸期）

2 如法経石塔 （推定鎌倉期）

3 宝篋印石塔 二基（同右）

4 板碑

「下」

二月十日迄に以上の如き現地調査を行つた。紙面の都合で詳細な調査記録を附する事が出来なかつたが文字内容のみはなるべく附する様にした。

